

〔骨董集 上編 下前〕ひいな草。今の世の女童ひいな草を採て雛の髪をゆひ紙の衣服を著せなどして平日の玩具とす、これもいと古き事なり、丹後守爲忠朝臣家百首契久戀源仲正、おもふとはつみえらせてきひいなぐさわらは遊びのてたはぶれより、按るに、仲正は源三位頼政卿の父にて、堀河院の此の歌人なれば、今文化十年より、およそ七百二三十年ばかり前、わらはのひいな草つみて、もて遊びたる事のありし證とするにたれり、これらをもて思ふに、いにしへの民の童のひいな遊びは、彼ひめ瓜、此ひいな草のたぐひにてありしなるべし、古代は童のもて遊び物として、別につくりて賣事まれなりしゆゑに、前に出せる竹馬のたぐひにて、自然に生ずる物を用ふ、今も田舎の童は、野山におのづから生て、食料にもならざる物を取りてもて遊ぶゆゑに、つひえなくてよし、

〔骨董集 上編 下前〕姫瓜の雛。姫瓜は漢名を金鷲蛋といふ、形鷲の卵に似たればなり、元祿の前後

女兒これを雛につくりて、平日にもて遊びたることありき、

〔ひな人形の故實〕姫瓜雛と金鷲蛋。八月一日ひめ瓜節句といふ、田間より出、大さ梨子のごとし、此

求、其面白粉ぬり、墨にて、目はな、口をかき、色紙を以、水引を帶となし、もてあそぶ、

〔甲子夜話 九〕世ニ云ニハ、木下氏ノ備中ノ足守侯モトニハ、人ノ長ホドアル雛人形アリ、太閤秀吉ノモノ

ニシテ、今彼家ニ傳フト、視シ人ノ語ヲ屢聞ケリ、然ルニ木下氏ニ問タルト言シ人ノ語ヲ聞クニ、

如斯キ大偶人ハカノ家ニハ有ラズト、然レバ太閤傳來ト云コト虚説ナリト思シニ、或日、木下三

之丞今ノ足守侯訪來テ物語セシ中ニ、彼ヒ、ナノコトヲ問タレバ、是ハ秀吉公ノモノト云ハ非ナリ、

吾ガ先代肥後守後長久ト云シガ、子ガ叔母眞隆造リタルモノナリ、夫人ノ夫ナリ成ホド人ノ長ヨリモ大キク、

二間ノ處ニ一對ヲ置クベキホドナリ、今ハ女子ヲ嫁セシ水上織部ト云フ人ノモトニ、ソノ娘持

行シト語リシ、イカニモ如斯大偶人ハ罕ナルベシ、大佛殿ノコトナド思比ベテ、太閤ノモノナド